

9月下旬刊行予定

いわ ふね
岩 船

栗原洋一 詩集

わが身はすでに 鈴虫の うつせみの灰の身ならば
いまはただこのいつくしみの思いを この枯野にしずめ 薄明の灰に帰らむ
おほかたの 常ならぬ世の 秋の果てに

1990年代に『吉田』『草庭』の二冊の歴史的な詩集を発表、以後も世界に対しマージナルな位置で、孤独に詩作を続けてきた詩人・栗原洋一の26年ぶりの新詩集がついに刊行。

伊予風土記の逸文をモチーフに伊予松山の伝承や神話と詩人の「現在」が往還する長歌「岩船」とその反歌「權ノ歌」からなる表題詩篇「岩船」、広島への原爆投下という「歴史的惨事」に対峙する「宇品まで」「巖島」「創造者」など16篇の作品を収める。栞＝稲川方人／林浩平

栗原洋一（くりはら よういち）

1946年愛媛県松山市生まれ。詩集に『吉田』（七月堂、1990年／新版・2009年）。『草庭』（思潮社、1993年）。

ノイズを排し、最小限の言葉の生成に徹した『吉田』から三十年余り、『岩船』は、言い知れぬ声を持った「他者」を召還する。それらの声の聞き取りと、それらの姿の描写を、栗原洋一はみずからの「罪」を科して試行した。詩を書く自己、それを断罪する寡黙な行程のなかにおいて、詩集『岩船』を見出さねばならない。 稲川方人

栗原氏は詩を書かないではいられない。ハイデッカーがその詩論で唱えたように、我々は生の実存的な不安に晒されるなかで、Da「現」の根源的な顕現である「開け」を経験するために詩を書くのである。栗原氏が郷土松山の歴史の裂目に身を差し入れて、歴史事象を題材として詩を書くことこそが、自らの生を「現存在」として掴みとろうとする、のっぴきならない営為ではないだろうか。 林浩平



A5判 / 64頁 / 定価 2,000円 + 税
ISBN978-4-908568-24-4 C0092 ¥2000E

目次

- 神野
- 枯葉
- 波動
- 告知
- 宿営地
- 岩船 岩船／權ノ歌
- 去年の舟
- 宇品まで
- 巖島
- 創造者
- 水
- 海の鏡
- 失踪者
- 鈴虫
- 白き象
- 焚火

▶ご注文はツバメ出版流通まで **FAX 03-3721-1922**

TEL 03-6715-6121 E-mail info@tsubamebook.com <http://tsubamebook.com>

貴店名（番線印）	書肆子午線 新刊		info@shoshi-shigosen.co.jp
			返品条件注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人
ご注文数	栗原洋一 詩集 岩 船		
ご担当	様	冊	ISBN978-4-908568-24-4 C0092 A5判 / 64頁 / 定価＝本体 2,000円 + 税